



第6回

これは何？ あれは誰？

～ WH で始まる be 動詞の疑問文～

学習のポイント

- what や who と、is と are を使っているいろいろな質問ができる
- その質問に答えられる

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

whatやwhoを使っていろいろと質問してみよう

Who is it?

玄関の呼び鈴がなりました。誰かが玄関先にいることはわかっているのですが、それが誰だかわかりません。そのようなときはitを使って、Who is it? (どなたですか) と聞きます。

What is it?と言うと、「それは何ですか」と物について聞くときの質問になりますが、Who is it? とwhoを使って聞いているので、itを使っても人について聞いていることがわかります。

Who is it? と聞かれたら、It is me. (俺だよ/私よ)、あるいは名前を付けて It is Ryo. (亮だよ) などと答えればいいでしょう。このitは、電話での会話の最初などでも使えます。

【使い方】 Hello, it is me, Hina. (もしもし、私です、日梨です)

■単語や表現

washing machine

「洗濯するための機械 → 洗濯機」のことです。このように-ing machineで、「～するための機械」という意味になります。

【使い方】 printing machine (印刷機)
sewing machine (縫う機械→ミシン)

* 日本語のミシンはsewing machineのmachineが訛ってできた語です。

vending machine (自動販売機)

この-ingを使って次に来る物の使用目的を表す使い方を挙げておきましょう。

【使い方】 reading glasses (読書用メガネ) reading room (読書室)
reading table (読書用机) dining table (食卓)
writing desk (書き物机) writing paper (筆記用紙、書簡用紙)
swimming cap (水泳帽) swimming pool (プール)
swimming trunks (水泳用パンツ)

the sound ~

自然の作り出す音は、the sound of ~で表すことができます。「雨の音」ならthe sound of raindrops、「波の音」なら the sound of waves、あるいは「風の音」ならthe sound of

windsです。

川端康成の有名な小説『山の音』は、**The Sound of Mountains** と訳されています。

a frog's cry

「カエルの鳴き声」のことを英語ではこのように**cry**（叫び声）を使って言い表します。

同じ鳴き声でも、小鳥のさえずりは、**song**を使い、**the song of birds**などと言います。

面白いのはほかの鳥や動物の鳴き声を表す表現です。動物によって使う英語を変えてゆきます。例えば、カラスの鳴き声は**cawing**で、カラスが鳴くことを**caw**と言います。アヒルの鳴き声は**quacking**で、アヒルが鳴くことは**quack**です。

馬のいななきは**neighing**で、馬がいなくことは**neigh**、牛の鳴き声は**mooring**で、牛が鳴くことは**moo**です。ひつじの鳴き声は**baaing**で、羊が鳴くことは**baa**、犬の吠える声は**barking**で犬が吠えることは**bark**、猫の鳴き声は**mewing**あるいは**meowing**または**miaowing**で、猫が鳴くことは**mew**あるいは**meow**または**miaowing**です。

これらのほとんどは擬声語といって、その鳥なり動物の鳴き声をそのまま英語のしたものです。日本語でも「猫がニャンニャン鳴く」と言うのと同じです。

その質問に答えられる

■英語の決まり

what who

whatは基本的には物について聞く時に使い、**who**は人について聞くときに使います。例えば、目の前にある物が何だかわからないときは、

What is this?

と聞きます。**Is this a washing machine?**あるいは**Is this a generator?** という質問は、これは洗濯機ではないか、これは発電機ではないのか、とある程度予測して、その予測が正しいのかどうかを聞く質問です。その予測が正しい場合には、**Yes.**間違っていた場合には**No.**という答えになります。一方、**What is this?**は、これが何だか全く見当がつかないときに使う質問の文です。このように聞かれたら、

This is a wind machine.

のように、その物の名前を付けて答えます。その答えの**wind machine**がそもそも何だかわからない時は、さらに踏み込んで、

What is a wind machine?

と、聞けばよいでしょう。

人についても同様です。ここにいるのが田中さんではないか、と予測して聞く場合には、

Is this Mr Tanaka?

です。誰だか全く見当がつかない場合には、

Who is this?

です。そう聞かれたら、

This is Mr Tanaka.

のように、その人の名前を**This is**の後に付けて答えればよいでしょう。

column

アルファベットと発音 ⑥

K k

ケイと発音します。ケを発音するときにはかなり息を強く出して発音しますので、ケエイのように聞こえるかもしれません。同じkでも語の最後に発音されると、今度は弱く発音されほとんど聞こえないこともあります。ですから、**kick** の発音はキックではなく、キツ（ク）のように聞こえることがあります。

語の最初のkは強く息を出して発音し、語の最後のkは弱く発音するようにしましょう。**key**は、キーのように、これも語の最初のkは強く息を出して発音します。



L l

カタカナで書けばエルですが、実際はエウのように聞こえます。エを発音した直後に舌先を強く上の歯茎に突き刺すように付けたまま発音します。かなり強い音です。**ill**、**oil**、**full**、**fall**なども、イウ、オイウ、フウ、フォーウ、と聞こえるかもしれません。このLをしっかりと強く発音できると、舌先を口の中のどこにも付けないで発音するRの音が柔らかく響きます。

Look! は、ルウツ（ク）のように、最初のlを強く、最後のkを弱く発音します。**love** はラブですが、最後のブは、上の歯を下唇に付けたまま息を出して発音します。声を出さずに発音するとfの音になります。

